

SCS ニュース No.1 2009.May.

Supply Chain Standards Management & Promotion Council

流通システム標準普及推進協議会 設立総会特集

設立総会 会員多数参集し、盛況のうちに終了



平成21年4月28日 東京・港区のホテルフロラシオン青山で、流通システム標準普及推進協議会の設立総会を開催しました。本協議会は、平成18年度から平成20年度までの3年間に実施された経済産業省委託事業「流通システム標準化事業」の活動を引き継ぎ、その成果である流通システム標準の維持管理と普及推進を行っていきます。

総会では、経過報告、会則案の承認、特別会員の選任に続いて、役員の選任を行い、会長に浅野正一郎氏(国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授)、副会長に井上淳氏(日本チェーンストア協会専務理事)と奥山則康氏(日本加工食品卸協会専務理事)が選任されました。総会後の記念講演、懇親会を含めて、当日は延べで、正会員:63名 支援会員:115名 報道機関:10名 合計:188名の参加を頂きました。本協議会は流通システム開発センター内に設置しています。本ニュースは、協議会会報として発行するもので、第1号では今回の設立総会の模様を、プログラムに沿ってご報告致します。

【プログラム】

- | | | |
|---------|-----------------------|---------|
| 1. 開会の辞 | 2. 来賓祝辞 | 3. 経過報告 |
| 4. 議事 | 第1号議案 会則案について | |
| | 第2号議案 特別会員の選任について | |
| | 第3号議案 役員の選任について | |
| | 第4号議案 平成21年度事業計画案について | |
| 5. 記念講演 | 6. 懇親会 | |

なお、本会報は、今後、隔月で発行いたします。

第2号以降では、各部会の状況報告、会員の皆様のご紹介などを行って参ります。

会員紹介では、正会員団体、ならびに各団体に加盟する企業へのインタビューを行い、最新情報を提供して参ります。

また、支援会員については、流通システム標準関連の製品・サービス紹介などを行って参ります。



1. 開会の辞 流通システム開発センター)会長 辛嶋修郎

流通システム標準普及推進協議会の設立総会に多数ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

本協議会は、経済産業省の流通システム標準化事業で策定されました、EDIメッセージ等の標準仕様を普及推進することを目的として発足するものでございます。

標準化は関係者が集まっていろいろ検討し、仕様を作り上げることがまず必要ですが、それが普及しなければ何の意味もありません。標準仕様は、昨年度までの3年間、関係業界の方々の多大なご努力と、経済産業省の手厚いご支援によって、充実した内容のものが出来上がったと聞いております。

この成果を、流通業界に普及させ、サプライチェーンの効率化と高度化という、本来の目的に一步でも近付けるために、これからは本協議会が中心となって、標準の維持管理と普及推進を行って参るわけです。

私共、流通システム開発センターは、流通システムの標準化推進を任務として発足した経緯もあり、**本協議会の活動はまさに、当センターの本来業務と捉えております。**協議会の活動が所期の目標を達成するためには、**業界団体のイニシアティブとIT企業の強力なサポートが必要です。**その意味で、正会員、支援会員が本会の活動に積極的に参画されることを期待しております

流通業界は、世界的な金融不安が消費者心理に影響を及ぼしていることもあって、売上げの低迷が続いております。この現象は、少子高齢化を考えると、今後とも続くことが予想され、業務効率化によるコスト削減と、企業間の情報共有と活用による業務改革がますます重要になって参ります。

その意味で、流通業界における本会の活動は、ますます重要なものになっていくものと思われますので、本日ご列席の皆様方の多大なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、開会のご挨拶といたします。



2. 来賓祝辞 経済産業省商務流通グループ流通政策課)課長 高橋直人氏

協議会設立総会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。昨年度まで経済産業省事業で取り組んできた流通システム標準化事業については、各業界団体の多大なるご支援を頂き、感謝いたします。

サプライチェーン全体の効率化に向けて、「流通システム標準」仕様の普及に取り組む段階に入ってきました。

本協議会の事務局の仕事は、流通システム開発センターが行うことになっています。

これまで経済産業省事業として取り組んできた「流通システム標準」の普及推進については、ご来場の正会員、支援会員の皆様の気持ちが反映される様な運営を進めてまいりたいと思います。流通業界は、この「流通システム標準」に則って標準化を進めていくということになります。

現在「流通システム標準」は JIS 制定の前段階である TS(標準仕様書)を申請し、審議を進めており、4月開催の日本工業標準調査会・標準部会にて承認されました。TSとJIS化を進め、また「**流通 BMS**」については**商標登録を進めていき、流通システム標準を日本の流通・産業のスタンダードとして強力に普及させていきます。**

「流通 BMS」の商標登録と、適合した商品への商標やロゴの使用許諾により、「流通 BMS」に準拠しない利用の抑止と維持管理を進めていきます。経済産業省は、本協議会を中心に普及と維持管理を推し進めていきます。

従来の商慣習を効率化し、流通業界と消費者にメリットを生んでいくのが、標準化の狙いです。

ご来場の関係者、皆様のご尽力を頂き、本日の設立総会を迎えられたことに感謝申し上げます。

3. 経過報告 流通システム開発センター)部長 坂本尚登



経過報告内容は、流通システム標準普及推進協議会 HP で公開いたします。報告概要は以下の通り。

- ・主な流通システム標準の策定経緯と内容:「流通ビジネスメッセージ標準」「商品マスタデータ関連の標準」
- ・標準の維持管理組織の検討経緯 :「経済産業省事業での検討」
「流通システム開発センターでの設立準備活動」

4. 議事



会則によると、議長は会長が務めることになっているが、会長が選任されるまでの間、流開センターの専務理事上野裕が議長代行を務めた。

第1号議案 流通システム標準普及推進協議会 会則案について
原案通り、承認された。

第2号議案 特別会員の選任
国立情報学研究所の浅野正一郎教授を、特別会員として選任することについて、承認された。

第3号議案 役員の選任
会長として国立情報学研究所の浅野正一郎教授、副会長として日本チェーンストア協会の井上淳専務理事と(社)日本加工食品卸協会の奥山則康専務理事を選任することについて、承認された。

第4号議案 平成21年度事業計画案
会長に選任された浅野会長の議事進行で、第4号議案を審議し、平成21年度事業計画案について、原案通り承認された。
以下、第4号議案内容(要約)である。

1)基本方針:

流通ビジネスメッセージ標準(流通 BMS)について、旧来の手順(JCA 手順等)からの早期移行が望まれていることから、商品マスタデータ等検討中のメッセージを早期に確定させていく。

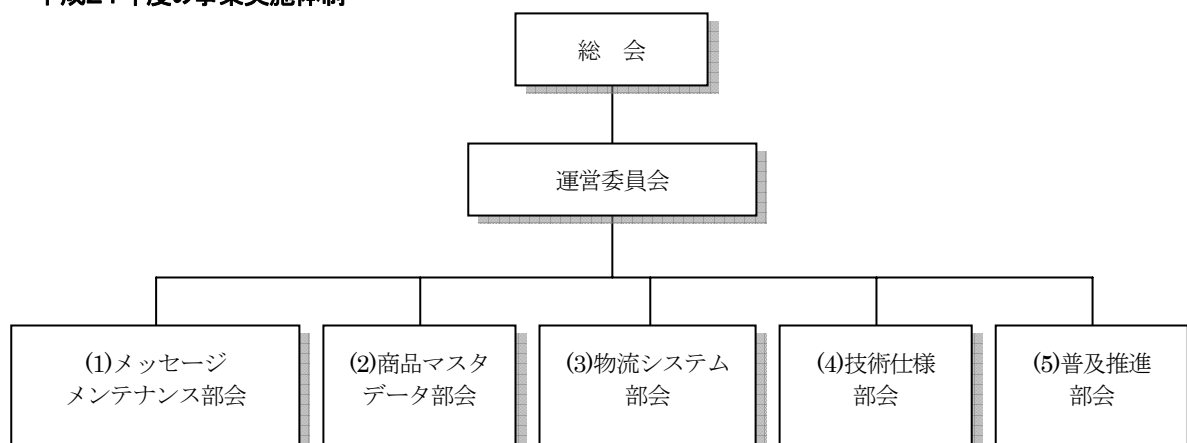
経済産業省と連携を図りながら、法的・制度的な面の整備を行う。特に中小流通業向けの普及策を検討する部会を設置し、標準の普遍的な利用を図る。

2)流通システム標準の開発・維持管理事業

流通システム標準の開発・維持管理は、対象となる標準仕様ごとに部会を設置して行う。

- (1) メッセージメンテナンス部会
- (2) 商品マスタデータ部会
- (3) 物流システム部会
- (4) 技術仕様部会

平成21年度の事業実施体制



※ 必要に応じて、各部会の下にワーキングやタスクを設置することができる。

※ (財)流通システム開発センターが協議会業務全般の事務作業を行う。

3) 流通システム標準の導入支援・普及推進事業

(1) 会員の要請に応じて行う活動

- ① 業界団体等の検討活動への支援
- ② 個別説明会の実施
- ③ 相談窓口の運営

(2) 協議会が主体となって行う活動

- ① 普及セミナーの開催(全国主要都市で秋以降)
- ② 流通 BMS 講座の開催(6月以降)
- ③ フォーラムの開催(11月、セミナーと支援会員による流通システム標準関連機器ソフト/ネットワークサービスの展示を予定)
- ④ 会報の発行(5月から隔月で発行。第1号は設立総会の模様、第2号以降、協議会活動状況報告、会員紹介などを予定)
- ⑤ 広報普及資料の作成(リーフレット、概説書)
- ⑥ ホームページの運営

(3) 普及推進部会の設置

中小流通業に特有の課題について検討する普及推進部会を設置し、中小流通業への導入促進を図る。

4) 法的・制度的な整備

- (1) 商標権の登録: 文字商標2種、図形商標1種: 出願済
- (2) JIS化に向けた活動: 流通システム標準の策定と維持管理に関わる組織の要件のJIS化への準備を進めている。
- (3) 協議会としての規程整備: 会則以外の運用細則を業務運用規程として定める予定

以上をもって、本日の全ての議案について、承認された。



5. 記念講演 流通システム標準普及推進協議会会長

国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 教授 浅野 正一郎氏

司会：講師の浅野教授には、平成15年度以降6年間に渡り、経済産業省の事業の委員長を一貫してお願いしてきました。今後は、協議会の会長として、ご指導をいただきます。

今回、「流通システム標準に期待すること」と題して、ご講演いただきます。

浅野会長の記念講演

私個人が、流通システム標準について、どのように考えて対応してきたかを、お話しいたします。

(講演内容は、以下通り)

流通システム標準の目指すところ

製・配・販からなる流通業界の情報共通と情報交換のためのインフラとして、流通BMSを始めとする流通システム標準を「開発」し、「維持」し、「普及」を図ることで

全ての関係者の業務効率化を実現し、流通サプライチェーンの全体最適化を達成し

需要に応える商品を企画・開発し、安全な商品を提供し、効果的に顧客満足度を高めることにより

事業の発展に資すること

2009年4月28日

流通システム標準普及推進協議会
設立総会

2

インフラとしての標準とは

- 特定の業種・業態に特化したものではなく、基本の枠組みの一般性が確認され、多くの業種・業態から賛同を得られる
- 大規模事業から中小規模の事業に至るまで、活用できる
- 標準を実装する製品が検証され、異なる製造者による製品が相互運用(インターオペラブル)できる
- 将来のサプライチェーンの高度化にあたり、基本の枠組みを変えことなく、新たな標準を追加できる
- このために、最低限のルールの下に、発案が生かされるように運用される標準開発と維持のための組織が存在する

2009年4月28日

流通システム標準普及推進協議会
設立総会

3

同様の組織の事例

(インターネット)

- IETF(Internet Engineering Task Force)が標準開発・維持・普及を担う組織
- 非営利で検討成果は公開
- 賛同があることと、技術的な検証(試行製品による確認)がなされていることが標準開発のルール
- 1981年に考案されたTCP/IP(インターネットのインフラ標準)を発展させ、音声通信・移動通信・セキュリティ機能・ユビキタス応用への高度な対応を図り、代替するものがないインフラ標準を発展させている
- 斬新な発案を採用する精神と、製造・利用・研究の垣根を越えた連携が特徴

2009年4月28日

流通システム標準普及推進協議会
設立総会

4

標準維持管理のための権利と制度への配慮

(経済産業省が作成された資料より)

著作権

- ・平成18～20年度流通システム標準化事業の成果物である「流通システム標準」について、国が保有する著作権の対応を整理。(協議会による継続的な使用・改変等を前提。)

JIS化 法制化

- ・維持管理する流通システム標準の対象の明確化と、協議会の制度的な位置づけの明確化を図り、協議会を、流通システム標準を維持管理する唯一の組織としてオーソライズするため、工業標準化法に基づくJIS化を検討。
- ・併せて、流通システム標準の更なる普及促進のため、その他関連法令への明記、インセンティブ制度の創設も検討。

商標 登録

- ・標準から逸脱した製品開発・利用を抑止し、標準に準拠した製品を推奨していくため、「流通ビジネスメッセージ標準」「流通BMS」等の文言について商標登録を行う。
- ・併せて、ロゴマークの制定とその商標登録も検討。

2009年4月28日

流通システム標準普及推進協議会
設立総会

5

5

基本BMSの他にも検討対象はある

物流ラベル等の物流帳票

- 真の伝票レスモデルを実現する流通ビジネスメッセージ標準の完成
 - ✓ 個別仕様を排除しながら容易に実装できる標準
- 標準化案開発の加速
 - ✓ 「流通ビジネスメッセージ標準」普及の足かせとならないように
- 業界全体での合理化
 - ✓ 小売側物流業務合理化のためだけではなく、卸・物流業者ニーズを吸収するように
- 業界を横断した仕様集約化の模索
 - ✓ 業界横断的な標準開発は長期間を要することが予測されるが、短期化する方策は？

GS1データバー

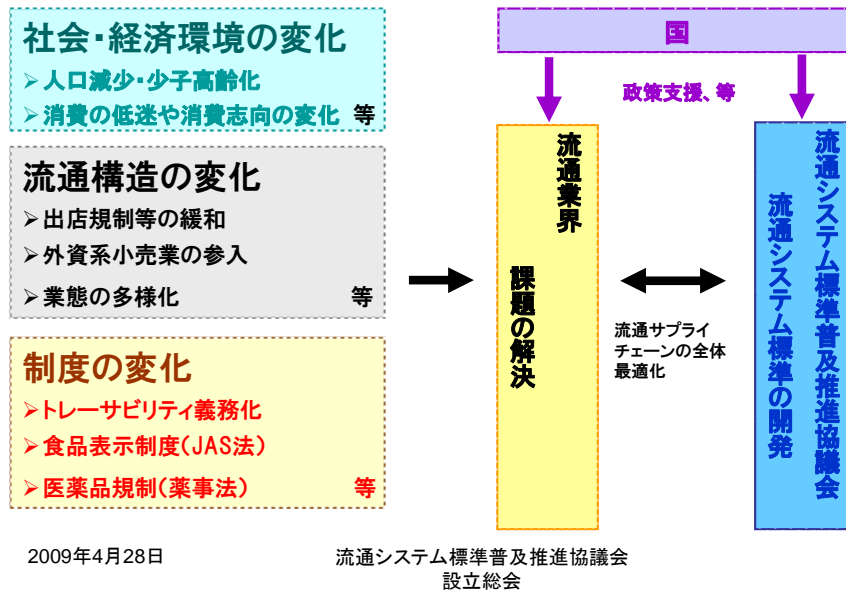
- POSなど機器能力の検証に加え、業務運用の効果を把握

2009年4月28日

流通システム標準普及推進協議会
設立総会

6

引き続き、国のご指導が必要



7

6. 懇親会



井上副会長の冒頭挨拶



奥山副会長の乾杯挨拶



流通システム標準の普及に向けて、会員がその意欲を語り合った。

【記者説明】

浅野会長の記念講演終了後、懇親会に移るまでの短時間に、出席した報道機関向けの記者説明会を開催しました。



左から 流開)専務理事)上野裕、副会長)井上 淳、会長)浅野 正一郎、副会長)奥山 則康 の各氏

Q: 両副会長に伺いたい。流通業界として流通システム標準に期待すること、また、それぞれどのような取組みをされていくのか。

井上副会長: 商売の基本として近江商人に「三方よし」という考え方がある。流通システム標準はまさに近江商人の理念を 21 世紀において具現化する道具だと思っている。顧客満足度の向上は「世間よし」、取引双方の業務効率化は「売り手よし」、「買い手よし」ということだと思う。

この効能を発揮するためには、いつでも、どこでも、誰とでも使える形になることが条件になる。換言すると、導入する個社と社会全体が普及のためのにわとりと卵の関係になる。したがって、製・配・販、IT 企業含めて関係者が一堂に集まるこの協議会は、雪だるまの芯や磁石の機能に等しく、極めて大事だと思っている。

小売業界も日本チェーンストア協会をはじめとして長らく標準化に関与してきており、これまで以上に努力をしていく必要がある。製・配、あるいは流開センターと二人三脚を組んで、三方よしの効能を発揮すべく努めていきたい。

奥山副会長: 井上副会長から紹介があった精神を基に、流通システム標準の普及啓発に努めていきたい。特に私共にとっては、全体最適化のため、運用レベルで独自性が優先されないように、課題があれば協議会でオープンな議論を行っていただいて、全体最適な標準化が指向できるよう、大いに期待をしているところである。

Q: 流通システム標準は、日本の形であるが、世界的な標準との整合性をどのように取っていくのか？

浅野会長: 今日の説明の中では、国際的な整合性については、あまり話題に上がっていないが、その陰では、6 年間の経済産業省プロジェクトにおいても、国際的な手法と項目との整合を意識して進めてきた。標準 EDI の普及推進については、国際のほうが若干遅れている可能性がある。国内では、協議会を設置し、具体的な製品まで対応している。このような体系的な進め方は、国際的にも例を見ない内容であると自負している。国際的な標準の開発の組織とは、連携を取っている。

流開)坂本部長: 技術的な話になるが、最初は、国際標準に準拠して検討をスタートしている。メッセージの上位層は国際標準に準拠しているが、下位層である明細項目レベルでは、日本独自の商慣習もあり、その商慣習に対応している状況である。可能なところでは国際標準に準拠しているが、詳細部分では、難しいところがある。

協議会会員一覧

1. 正会員入会状況(平成 21 年 4 月 23 日現在。44 団体)

(財)家電製品協会	(社)全日本文具協会	日本石鹸洗剤工業会
酒類加工食品企業間情報システム研究会	全日本菓種商協会	(社)日本専門店協会
食肉流通標準化システム協議会	(社)大日本水産会	日本チェーンストア協会
(財)食品産業センター	(社)日本アパレル産業協会	日本チェーンストア協会
(財)食品流通構造改善促進機構	(社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会	(社)日本ドッグ・イット・エアセルフ協会
(財)生活用品振興センター	(社)日本衛生材料工業連合会	日本歯磨工業会
全国医薬品小売商業組合連合会	日本OTC医薬品協会	日本ハム・ソーセージ工業協同組合
全国卸売酒販組合中央会	(社)日本加工食品卸協会	日本百貨店協会
全国菓子卸商業組合連合会	(社)日本玩具協会	(社)日本フードサービス協会
全国化粧品日用品卸連合会	日本化粧品工業連合会	日本文紙事務器卸団体連合会
(社)全国スーパーマーケット協会	日本GCI推進協議会	日本ボランティア・チェーン協会
(社)全国中央市場水産卸協会	有限責任中間法人 日本出版インフラセンター	(社)日本レコード協会
(社)全国中央市場青果卸売協会	日本スーパーマーケット協会	(社)日本ロジスティクスシステム協会
全日本菓子協会	(社)日本スポーツ用品工業協会	協同組合 ハウネット
全日本履物団体協議会	日本生活協同組合連合会	

2. 支援会員入会状況(平成 21 年 4 月 23 日現在。83 社)(社名 50 音順)

(株)アイシーエス	(株)コスモコンピュータシステムズ	(株)ニュートラル
(株)アイティフォー	小林クリエイティブ(株)	(株)ネクステージコンサルティング
(株)あじよ	(株)サイバーリンクス	パワー・ワークス(株)
イーサポータルリンク(株)	(株)サトー	(株)日立情報システムズ
(株)イーネット	(株)サンレックス	日立ビジネスソリューション(株)
(株)イービックス	(株)CSKシステムズ	(株)ヒット・エイ
(株)インダ	GMOグローバルサイン(株)	(株)ひむか流通ネットワーク
(株)インターコム	(株)JSOL	富士ゼロックス(株)
(株)インターシ	シャープシステムプロダクト(株)	富士通(株)
(株)インテック	住商情報システム(株)	富士通エフ・アイ・ピー(株)
(株)インフォーマット	住友セメントシステム開発(株)	(株)富士通システムソリューションズ
(株)インフォメーションプロセッシングリサーチ	セイコープレジジョン(株)	(株)富士通総研
ウインキュラム ジャパン(株)	創玄塾	(株)富士通中部システムズ
ウルシステムズ(株)	TIS(株)	(株)プラス
(株)HBA	(株)TKC	(株)プラネット
(株)エス・エフ・アイ	(株)データ・アプリケーション	(株)フリーポート
(株)S-Parts	(株)デジタルコンセプト	(株)ヘリオス
エヌアイシー・インフォトレート(株)	鉄道情報システム(株)	北陸コンピュータ・サービス(株)
(株)NEC情報システムズ	(株)寺岡システム	ホンダロジコム(株)
NECトータルインテグレーションサービス(株)	(株)寺岡精工	ミツイワ(株)
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	(株)ニッセイコム	三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
大阪市中央卸売市場	日本アイ・ビー・エム(株)	三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)
大阪商工会議所	日本アドバンストリーダースソフトウェア(株)	ユーザックシステム(株)
カストプラス(株)	日本情報通信(株)	(株)ユーフィット
カンダホールディングス(株)	日本電気(株)	(株)ユニックス
キャンノITソリューションズ(株)	日本ヒューレット・パッカード(株)	(株)リテイルサイエンス
(株)クライム	日本ユニシス(株)	(株)リンネット
K・ビジネスサポート(株)	日本ラット情報サービス(株)	
5月12日現在89社。設立総会以降、新たに入会された支援会員は下記の6社		
(株)アイネット、(株)ジェイ・エス・エス、(株)野村総合研究所、(株)日立製作所、(株)ファインット、ユニバーサルード(株)		

コーヒープレイク(用語確認をもう一度！！)



1. 流通システム標準とは？

流通システム標準としては、以下の(1)(2)(3)(4)のことを言っています。

- (1) 流通システム化標準化事業(経済産業省平成 18、19、20 年度事業)で検討・策定された標準
- (2) 上記標準に対して協議会が変更等を行ったもの
- (3) 正会員および(財)流通システム開発センターからの新規開発要請に応じて検討を行う標準
- (4) 外部機関からの要請に応じて検討を行う標準

上記の(1)流通システム標準化事業には、次の①②③④があります。

- ① 流通ビジネスメッセージ標準(流通BMS)関連
- ② 商品マスタデータ関連
- ③ 通信基盤関連
- ④ その他(標準物流ラベル等)

2. 流通BMSとは？

経済産業省では、平成 18 年度から3か年計画で「流通システム標準化事業」を実施し、その検討の中で、次世代の標準EDIを、今後「流通ビジネスメッセージ標準(流通BMS)」と呼ぶことを、平成19年4月、関係者の総意で決めました。

流通BMSは、Business Message Standards の略です。

流通ビジネスメッセージ標準関連には、次の①②③④⑤があります。

- ① 標準メッセージ(業務ごとに必要とされるメッセージを構造化したデータ項目群として記述したもの)
- ② XMLスキーマ(標準メッセージを企業間で交換するためにシステム向け言語に翻訳したもの)
- ③ 業務プロセスモデル(標準メッセージの対象となるプロセスの定義)
- ④ データ項目辞書(標準メッセージで使用するデータ項目の定義)
- ⑤ 各種ガイドライン(流通ビジネスメッセージ標準の利用方法等を記述したもの)

流通BMSは、XMLスキーマだけではなく、
業務プロセスモデルや導入・利用のガイドライン
も含んでいます。

商標権の登録について

流通BMSの商標権については、(財)流通システム開発センターから下記内容で出願しています。

- ・ 文字商標2種(流通ビジネスメッセージ標準、流通BMS) 《出願日：平成21年1月14日》
- ・ 図形商標1種(流通BMSのロゴマーク。下掲) 《出願日：平成21年4月10日》



今後、流通BMSの適合性を判断できるチェックリストを公開し、自社製品やサービスへの「自己適合宣言」を行った支援会員企業に対して、商標権及びロゴマークの使用許諾を与え、適切な利用促進と不適切な使用の抑制を図っていきます。

＜編集後記＞

SCSニュース No.1(流通システム標準普及推進協議会 会報 No.1)いかがでしたでしょうか？

今回は4月28日に行われた設立総会を中心にお届けしましたが、今後は各会員の紹介や協議会の活動報告、流通システム標準に関する最新状況など、内容の充実を図り、皆様に喜ばれるような紙面にしていく予定です。

なお、**SCS**は、**S**upply **C**hain **S**tandards Management & Promotion Council からとっており、本協議会の略称も「**SCS協議会**」としていきます。

今後ともご愛顧、ご愛読のほど お願いいたします。

(や)



発行：平成21年5月20日 発行(禁無断転載)

発行人：流通システム標準普及推進協議会(Supply Chain Standards Management & Promotion Council)

事務局：財団法人 流通システム開発センター／流通システム標準普及推進協議会事務局(SCS 協議会事務局)

〒107-0052

東京都港区赤坂7-3-37 プラス・カナダ3階

Tel:03-5414-8505 Fax:03-5414-8513

E-mail:scs@dsri.jp URL:<http://www.dsri.jp/scs>